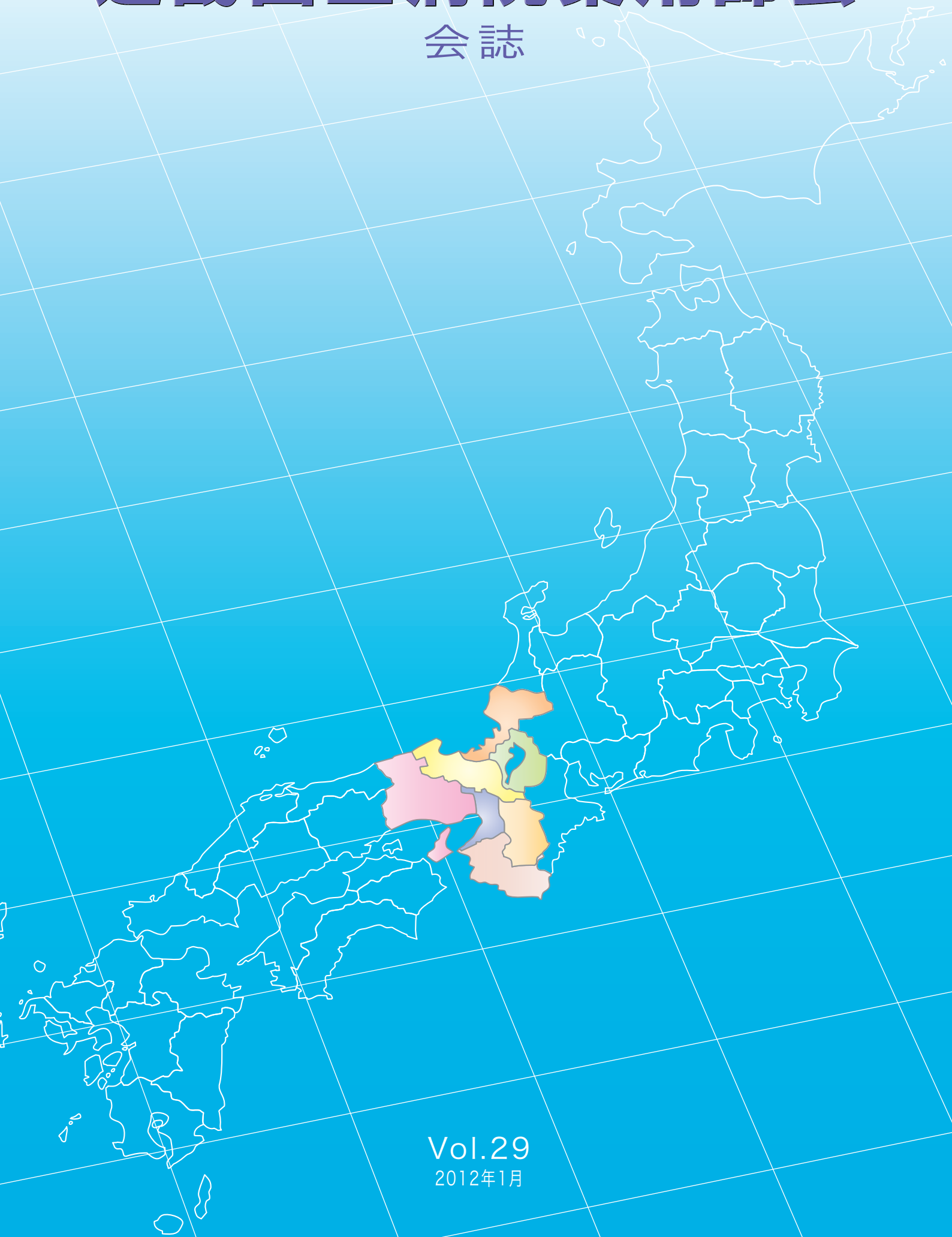


近畿国立病院薬剤師会

会誌



Vol.29

2012年1月

目 次

| | |
|---------------------------------|-------|
| 新会長挨拶..... | 2 |
| 京都医療センター | 北村 良雄 |
| 新副会長挨拶..... | 3 |
| 神戸医療センター | 和田 洋忠 |
| 姫路医療センター | 小林 勝昭 |
| 提言 「一コ・メディカルからメディカルスタッフへ」 | 5 |
| 近畿中央胸部疾患センター | 仲野 秀昭 |
| 薬剤科紹介..... | 7 |
| 国立循環器病研究センター | 杉山 喜久 |
| 平成 24 年度近畿国立病院薬剤師会総会報告..... | 10 |
| 近畿中央胸部疾患センター | 宮部 貴識 |
| 総会特別講演会報告..... | 13 |
| 近畿中央胸部疾患センター | 堀川 裕子 |
| 就職説明会に参加して..... | 14 |
| 刀根山病院 | 竹中 裕美 |
| 編集後記..... | 15 |

会長挨拶

近畿国立病院薬剤師会 会長
京都医療センター 北村 良雄

先ず始めに、小森勝也前会長におかれましては二年間、当会のためにご尽力を賜り感謝申し上げますと共に、引き続き新体制の当薬剤師会の運営にご指導並びにご助言を頂きますよう、お願い申し上げます。

さて、昨年10月に行われた会長選挙において多くの会員の先生方にご信任を頂き、小森先生の後任として会長に就任致しました。当薬剤師会は、約50年間続いた「近畿国立病院・療養所並びに国立循環器病センター薬学集談会」を前身とし、平成15年12月に全薬剤師から成る「近畿国立病院薬剤師会」に再編成されました。新組織となり9年目を迎えますが、当時の薬学集談会においても今回と同様に小森先生から会長を引き継ぎ当会の運営他、数多くのことを教えて頂きました。

思い起こせば、当時の薬学集談会の運営は大変厳しく、例会への参加者が毎回数十名しか集まらず、人集めに苦慮した思い出があります。今回の新体制において役員となって頂いた先生方は9年前の薬学集談会で共に苦労を分かち合った顔ぶれが多く、改めて人とのつながりの大事さと有り難さを身に染みて感じています。

今、団塊の世代が後期高齢者となる2025年問題にともない、日本の医療もこれに対応すべく厚生労働省を中心として新体系が検討されています。近畿国立病院の薬剤師も、今後5年で約20名、10年で約50名が定年を迎えることとなりますが、その多くは男性です。このように多くの退職者が出るなかで、薬剤科の管理者である薬剤科長職に、今までのように十分な経験を積んで就くことが困難な状況が予想されます。また女性の比率が現在の約半分からおそらく2/3程度となり多くの女性薬剤科長・副科長が誕生することとなります。このために、個々の薬剤師が将来の管理者としての資質の向上を図り、臨床の分野以外にも薬剤科運営という広い観点から経験と知識を深めて行く必要があります。

同様に、新体制における常任理事は男性のみですが、今後将来に向けて若年層並びに女性の常任理事の登用を検討すべき時期が来ているように思います。産休・育休問題を始め人材育成など今後を見据えた多くの問題解決のため、地区会を中心とした会員の先生方の意見をいただき、関係分野の専門家を招いての講演会などを企画立案し、活発な運営を行って参りたいと思います。

最後になりましたが、近畿国立病院薬剤師会の将来の組織作りの礎を築くために努力して参りますので、ご協力の程よろしくお願い致します。

副会長になって

近畿国立病院薬剤師会 副会長
神戸医療センター 和田 洋忠

私は平成 23 年度までは教育研修委員会委員長を 4 年間努めました。その間、会員の皆様にはご協力いただきましたこと、大変感謝しております。この場をお借りして、お礼申し上げます。

平成 24 年度からは副会長を務めることになりました。副会長は 2 名います。副会長の仕事は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行することです。

これからは副会長の立場で会の運営に当たらなければなりません。早速ですが、会員の皆様にお願ひがあります。

1. 近畿国立病院薬剤師会のホームページを今まで以上に見ていただきたい。
2. 近畿国立病院薬剤師会が主催する講演会などのイベントにできるだけ参加していただきたい。
3. 地区会にできるだけ参加していただきたい。
4. ネットワークを活用していただきたい。
5. 思ったことを教えていただきたい。

以上です。

今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

就任のご挨拶 薬剤師会で伝えあいたいこと ～仕事の流儀～

近畿国立病院薬剤師会 副会長
姫路医療センター 小林 勝昭

『プロフェッショナル 仕事の流儀』という NHK のテレビ番組があります。毎回ある仕事にスポットライトを当ててその仕事に情熱を傾ける“プロフェッショナル中のプロフェッショナル”をスタジオに招き、その仕事振りや仕事における信念などを多角的に紹介する番組で、視聴されている方も多いと思います。

私の仕事振りや仕事における信念なんて恥ずかしくてとても紙面で紹介できるようなものではありませんが、仕事のやり方でいつも意識していることがありますので以下に紹介します。

・“仕事に取り組むときは部分から積み上げるのではなく全体から理解する”

「小さなことからコツコツと」というのは西川きよし（元漫才師）のギャグです。仕事も基礎が重要だから、段階を踏んで進めていくのが常套手段ですが、私は先に全体を把握し、それに基づいて部分を理解するようにしています。これは鳥が上空から地上を眺めるように、先に全体像を把握するのです。私の経験からは、この方が効率的だと思っています。

・“仕事は8割できたら先に進む”

仕事は全てを完全に仕上げるのが理想ですが、私は 8 割できたら別の仕事に取り掛かるようにしています。これも私の経験ですが、残りの 2 割が難しく時間がかかるのです。完遂を目指しては多くの仕事を処理することはできません。ただし、どこが 8 割かの判断は容易ではありません。現在は自分の感覚的なもので判断しています。

・“仕事はとりあえずすぐやる。そしてしばらく寝かす。”

仕事が舞い込んだら、とりあえずすぐに取り掛かるようにしています。それも 8 割位まで。そしてしばらくそのままにしておきます。その間に間違いの発見や新しいアイデアが出てくることがあります。この寝かす時間が重要だと思っています。

人には個性があるように仕事のやり方（仕事の流儀）は個々によって異なると思います。薬剤師会では地区会や委員会活動など様々な交流の場があり、業務の情報交換がおこなわれています。それだけでなく親睦を深めて互いの仕事の流儀を伝えあうのはどうでしょうか。

今年から副会長の重責を担うことになりました。会長を補佐するよう努めたいと思いますので皆様のご協力を賜りますようお願いいたします。

提 言

「 コ・メディカルからメディカルスタッフへ 」

近畿中央胸部疾患センター 仲野 秀昭

今年辰年。私の干支でもあります。そう、還暦。老人を意味し自分には無関係な言葉と**思っていたので、びっくりするやら情けないやら。**(まだまだ受け入れられません) そんな折、今春の診療報酬改定で病棟に従事する薬剤師が勤務医などの負担軽減のほか、医療安全や薬物治療の質向上、薬剤費削減などにつながる業務を行った場合に診療報酬上で評価されるとの**情報がありました。大きなニュースです。**

私が病院薬剤師になった 30 数年前、薬剤業務は朝から晩まで調剤に明け暮れる日々でした。それから 7~8 年たつ頃、TDM が薬剤業務に入ってきました。当時は自分たちでの液クロ測定が当然のことでした。処方箋とにらめっこばかりとは異なる、新しい業務で、学会や投稿はどれもこれも TDM 関連ばかり。これに関わっていないと薬剤師ではないかのごとき雰囲気もありました。勿論、フィーはつかないが、臨床業務の走りといえます。

その後の転換期は昭和 63 年、現在の薬剤管理指導の原点である入院調剤技術基本料の新設です。これは服薬指導に対して診療報酬点数 100 点が請求でき、病院薬剤師の臨床業務に対する診療報酬上初めての評価で、いわゆる 100 点業務です。これをきっかけに病院薬剤師の業務は、入院患者志向の業務へと大きく変化しました。

これらと並び、何年か後には大きな転換期と記される、今春の薬剤管理指導に限定されない病棟業務への評価であり、薬剤業務が大きく様変わりすることになります。

こうして振り返る中で思い浮かべるのが、パラ・メディカルという言葉です。当時我々はパラ・メディカルと呼ばれていました。パラは「側面」「補助」という意味。しかし、20 世紀後半から、**チーム医療**という言葉が頻繁に使われ、それに伴い「医療協同従事者」を意味する**コ・メディカル (co-medical)** という呼称が広く使われだしました。パラ・メディカルはあくまでも医師が中心で、他のスタッフを従えていることになるが、コ・メディカルは各スタッフがそれぞれ自分のポジションを責任をもってこなす、という発想があります。この、コ・メディカルと呼ばれるに相応しい必然性には、その前提として**プロ意識 (professional)**が必要で、医師やスタッフに専門的な知識と技術をもつ唯一の存在として機能出来ているかだと思います。しかし、呼び方は代わり、臨床に携わるような仕事には多くなっただけで、**真のコ・メディカルに相応しい臨床薬剤師とよべるひとはそう多くはないし、さらに若い人を指導できる臨床薬剤師も多くはない。**今年**は薬学 6 年を学んだ薬剤師登場の年**でもあります。指導的立場の者はどう導き、若い人はなにをすべきかを趣旨に沿って提言したいところですが、先生方の深い洞察力に委ねます。

一方、診療報酬上の評価条件については近々示されるでしょうが、より大切なことはそれにとらわれることなく如何に貢献出来ているかを常に問う姿勢とそれにも勝る行動力です。研修センターのシール収集が目的の「私は認定薬剤師」は要りません。今回の改訂を千載一遇のチャンスとし、期待され必要とされる役割を果たす、その努力の暁に見えてく

るのが、真のコ・メディカル、さらにはコ・メディカルから脱した、メディカルスタッフとしての位置付けかと思います。

コ・メディカルは和製英語。英語で「comedical」というと、「喜劇の、コメディイの」という意味。このチャンスを生かしきれず、笑われないよう、まず行動を！！

松下政経塾の「塾訓」

“自習自得でことの本質を究め、日に新たに生成発展の道を求めよう”

参考：「薬剤師の病棟での業務について（中医協 総1-223.12.7）」

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001wydo-att/2r9852000001xbqk.pdf>

薬剤部紹介



所在地

大阪府吹田市北部に広がる千里丘陵の一角、万国博公園や閑静な住宅地に隣接する緑豊かな地に位置しています。近隣の大阪大学吹田キャンパスやバイオサイエンス研究所などとともに千里ライフサイエンス・ゾーンを形成し、循環器病の診療・研究に最適な環境にあります。また、新幹線、高速道路、空港などの広域交通アクセス手段にも恵まれています。

概略

薬剤師数 30名（平成23年12月1日現在）

常勤薬剤師：26名

非常勤薬剤師：2名

薬剤師レジデント：2名

取り扱い医薬品数（平成23年12月1日現在） 1,128品目

1日平均処方せん枚数（内服薬、注射薬）（平成23年12月現在）

入院：778枚 外来：32.6枚

院外処方せん発行率（平成23年12月） 93.6%

薬剤管理指導患者数（平成23年12月） 852人／月

薬剤管理指導件数（平成23年12月） 1,409件／月

薬物血中濃度測定（TDM）件数（平成23年12月） 194件／月

医薬品情報（DI）照会件数（平成23年12月） 181件／月

部門の特色

循環器病疾患専門病院の特色として、強心薬、不整脈薬、抗血栓薬、降圧薬をはじめとする循環器病薬や、心移植、感染症治療に用いられる免疫抑制薬、抗生物質など多くのお薬が使われています。これらのお薬には有効治療域の狭いお薬が多くあります。このため、個々の患者さんに合わせた最適な薬物療法が実施されるように、薬剤部で薬物血中濃度の測定し、その結果を迅速に解析するとともに医師に伝え、医師と協力してお薬の適正な投与量の設定を行っています。また、循環器病開発研究として研究所と病院が一体となって研究に参画しています。



患者さんには、安全で効率的な薬物治療を受けていただくためお薬の情報を提供するとともに、副作用の防止や早期発見に努めています。入院患者さんには、ご家族も参加できる教室（高血圧、糖尿病・腎臓病、心臓リハビリ、脳卒中など）を定期的に開催し、外来患者さんにも、外来生活習慣病教室として高血圧、腎不全、糖尿病、高脂血症の各教室を2ヶ月に1回のローテーションで医師、管理栄養士とともに講義を行い、日常生活での注意点やお薬の効果、安全性および使用方法などについて分かりやすく説明することで、薬物療法について理解していただけるよう努めています。また、臨床薬学的研究を積極的に実施するとともに、病院、大学などとの連携も進めており、同時に循環器病疾患の薬物治療を専門とする薬剤師育成のため、薬剤師レジデント制の導入（平成22年度から実施）や薬剤師研修センター、他施設薬剤師、薬学部学生を受け入れ、教育・研修に力を注いでいます。

☆薬剤師レジデント制度概要

【趣旨】

当センターにおける薬剤師レジデント制度は、わが国における循環器疾患の薬物療法の適正使用を推進し、将来この領域における先端的研究や高度専門薬剤師の育成・指導を行う牽引役となりうる人材を育成することを目的としており、病院薬剤師業務の基本的技術を修得するとともに循環器疾患に関する臨床および研究業務を行うこととする。研修期間は2年間とし、指導薬剤師のもとに業務に従事し、その修了は各々の目標の到達状況を評価することにより認定する。

【研修目標】

薬剤基本業務

薬剤基本業務に関する基本的技術を修得する。

臨床・研究業務

臨床薬剤業務・研究業務のいずれかを行い、研修修了時までに関連学会における発表・論文投稿を行う。

平成24年1月9日より電子カルテの運用が始まり薬剤部の業務(調剤業務・持参薬業務)も大きく変動しており、また来年度は定員7名の増員とレジデント2名が予定され手術室の常駐化も予定されています。

(文責 杉山 喜久)

平成 24 年度近畿国立病院薬剤師会総会報告

近畿中央胸部疾患センター 宮部 貴識

平成 24 年度近畿国立病院薬剤師会総会が平成 24 年 1 月 7 日（土）KKR ホテル大阪にて開催された。

14 時 30 分、岡田副会長の開会の辞により総会が開始となり、小森会長から挨拶、引き続いて山崎薬事専門職より挨拶を頂いた。

議長には姫路医療センター橋本副薬剤科長が選出され、23 年度事業報告、会計報告、会計監査報告があり、全て承認された。

今年度は小森会長の任期満了に伴う改選となったため、北村新会長の挨拶を頂き、新役員が紹介された。続いて 24 年度事業計画案、予算案について審議され全て承認された。その後、部会紹介が行われ、最後に和田新副会長の閉会の辞により無事、総会が終了した。

日時：平成 24 年 1 月 7 日（土）

場所：KKR ホテル大阪

担当施設：近畿中央胸部疾患センター

出席者数：出席者 139 名、委任者 86 名

会則第 12 条に従い、会員過半数出席により総会
が成立

司会：岡田副会長（宇多野病院 薬剤科長）

開会の辞：小森会長（大阪医療センター 薬剤科長）

議長：橋本（姫路医療センター 副薬剤科長）

閉会の辞：和田新副会長（神戸医療センター 薬剤科長）



報告および審議事項

I. 報告事項

(1) 平成 23 年度事業報告

①総務

平成 23 年度年間活動報告について山内総務担当理事（大阪医療センター）より報告があった。

②広報

広報担当会議、会誌の発行、ホームページの運用とメンテナンス、会員名簿と委員会メーリングリストのメンテナンスについて廣畑広報担当理事（刀根山病院）より報告があった。

③委員会報告

教育研修員会

学術集会、講演会、新採用薬剤師研修会、研修用 DVD の作成、薬学 6 年制の長期実務実習に対する検討、研修シールの申請配布、調査事業について、高田委員長（奈良医療センター）より報告があった。

業務検討委員会

小委員会会議開催、研修会開催について小林委員長（姫路医療センター）より報告があった。

平成 23 年度小委員会事業報告

- ・薬品管理小委員会 河合委員長（大阪医療センター）
- ・薬剤業務小委員会 川端委員長（刀根山病院）
- ・治験小委員会 山本委員長（京都医療センター）
- ・情報管理委員会 粉川委員長（刀根山病院）

③地区会報告 各地区理事より活動報告があった。

- ・京都北部・福井地区 古川地区理事（舞鶴医療センター）
- ・京都南部・滋賀地区 田中地区理事（京都医療センター）
- ・兵庫南部地区 水谷地区理事（姫路医療センター）
- ・大阪北部・兵庫東部地区 杉山地区理事（循環器病研究センター）
- ・大阪南部地区 大津地区副理事（大阪南医療センター）
- ・奈良地区 松本地区理事（奈良医療センター）
- ・和歌山地区 宮地地区理事（南和歌山医療センター）

④近畿国立病院薬剤部科長協議会

平成 23 年度事業について小森会長（大阪医療センター）より中間報告があった。

(2) 平成 23 年度会計報告

本田経理担当理事（大阪医療センター）より平成 23 年度会計報告があった。

(3) 平成 23 年度会計監査

砂金監査役（和歌山病院）より平成 23 年 12 月 22 日に平成 23 年度会計監査が実施され、適正かつ正確であるとの報告があった。

以上について審議の結果、賛成多数で承認された。

II. 新会長挨拶

新会長に選出された北村京都医療センター薬剤科長より就任の挨拶があった。

(1) 役員紹介

任期満了に伴う役員改選があったため、北村会長より新役員が紹介された。



III. 審議事項

(1) 監査役選出

監査役の任期満了に伴い、中多刀根山病院薬剤科長、本田大阪医療センター副薬剤科長が推薦され賛成多数で信任された。

(2) 平成 24 年度事業計画

①総務

平成 24 年度事業年間計画について山内総務担当理事より説明があった。

②広報

名簿・緊急連絡網、会誌、ホームページ、担当分担について廣畑広報担当理事より説明があった。

③各委員会

平成 24 年度の事業年間計画について、教育研修委員会は岡田委員長（南和歌山医療センター）より、業務検討委員会は砂金委員長（和歌山病院）よりそれぞれ説明があった。

(3) 平成 24 年度予算案

上野経理担当理事（大阪医療センター）より平成 24 年度予算案について説明があった。

以上について審議の結果、賛成多数で承認された。

その他

部会の各代表者より活動目的、運営方針の紹介があった。

特別講演報告

近畿中央胸部疾患センター 堀川 裕子

演題：がん専門病院の薬剤部門の運営(人材養成等)
—国民から薬剤師への期待にこたえるために—
日時：平成 24 年 1 月 7 日（土）16:20～17:50
講師：国立がん研究センター中央病院
薬剤部 部長 山本 弘史先生



日本において、がんの死亡率が年々増加し、がんがすべての国民の問題となっている現状と、国のがん医療の問題への対策として、がん対策基本法が整備され、がん対策推進基本計画が施行されていることから講演を始められました。

国のがん医療への政策を踏まえたうえでの国立がん研究センターの役割・責務・使命を、独立行政法人の定義や基本的仕組みを再認識したうえで話ししていただきました。国立がん研究センターの使命には、がん医療において、先進医療を患者に提供し、世界最高の調査・研究を実施し技術開拓を行うこと、各地域のがん医療での中核的役割を担うリーダーの育成などの教育、現場から問題点を発掘し政策を提言することなど、多大な責務を担われていることがわかりました。

その使命を果たすために、薬剤部でも改革の方向性を示し、専門性を尊重した人事や増員、医療事故防止に寄与する業務の強化などを実施され、現在も改革を進められている現状を知ることができました。平成 18 年から開設されている薬剤師レジデント制度もその一つで、制度の意味するところは、養成に終わるのではなく、生涯をかけてがん医療に貢献する薬剤師をつくるということであると教えていただきました。また、米国の薬剤師レジデント制度もご紹介いただきました。

がん専門薬剤師の活動する領域として、チーム医療の形や薬剤師の役割を MD Anderson Cancer Center のチーム・オンコロジーを通して教えていただきました。米国と多くの制度などの違いはありますが、薬剤師の目指すところに違いはない印象を受けました。

日本では、薬学 6 年制が導入され、日本病院薬剤師会や各種学会は、専門薬剤師研修制度を実施し各種専門薬剤師の認定制度を開始していますが、薬剤師がキャリアアップするためには、研究成果を発表する土壌や教育・研修を実践する環境が整備されることも重要だと認識できました。

国立がん研究センターでは、日本のがん医療を支えるために、率先して人材育成の基盤を整備し、多大なご尽力をいただいていることが理解できました。

就職説明会に参加して

刀根山病院 竹中 裕美

この度、めでいしーんフォーラムに参加させて頂きましたので、報告いたします。

めでいしーんフォーラムは（株）ジェイブロード主催の薬学生対象の合同就職セミナーで、大阪の他にも全国各地で開催されています。今回のめでいしーんフォーラム大阪は、12月18日、天満橋のOMMビルイベントホールにおいて開催されました。企業ブースとしては主に調剤薬局、ドラッグストア、SMO、病院など32社の参画があり、また企業ブースとは別に、就職活動応援講座や国家試験対策講座、リクルートメイクアップ講座、業界研究などの特別講座が用意されていました。広い会場でしたが1000名を超える学生が訪れ、非常に活気に満ちた説明会でした。



ブース内での説明会の様子

我々国立病院機構は、9回に渡ってブース内での説明会を実施しました。写真の通りいずれも超満員で、用意していたパンフレットも足りなくなるほどの大盛況でした。また今回は例年と違い、特別講座の中で国立病院機構として45分間の時間を頂いていました。内容としては、山崎薬事専門職より募集要項等の説明の後、引き続き畑薬剤師、私が、自身の実務内容についてパワーポイントを用いた発表を行いました。用意されていた

200席は満席となり、学生たちの気迫と緊張感に圧倒されそうになりましたが、熱心にメモを取りながら耳を傾ける姿に身が引きしまる思いでした。学生からは、専門薬剤師について、人事異動について、産休育休について、就職試験対策について等多数の質問があり、中にはこれから病院実習に臨むに当たっての心構えといった熱心な質問もありました。

今回の就職説明会は、私自身にとっても就職当初の原点に立ち返る良い機会となりました。今春よりいよいよ6年制の卒業生が社会に出きます。薬剤師の資質が試される時期でもあると思いますので、より一層気を引き締めて業務に邁進していきたいと思っております。



就職説明会終了後、全員で

編集後記

- ♪ 新年あけましておめでとうございます。辰年の本年は皆さまにとって昇り竜の如く飛翔の年になりますことをお祈り申し上げます。昨年中は多くの先生方から原稿執筆にご協力を頂き誠にありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。
- ♪ 本年は診療報酬改定と介護報酬改定のダブル改定の年となっています。また薬学 6 年教育を受けた薬剤師が誕生する年でもあります。新たな時代がやってくるのかも・・・。
- ♪ 「世界最速の超高齢化社会」における最低保障年金の創設など年金制度の抜本改革には消費税 10%を超えるさらなる増税が必要との報道がされています。消費税引上げなどこちらも大きな変化の年となるのかも・・・。
- ♪ 今年最初の会誌です。今月号では新会長、新副会長の就任挨拶、薬剤師会総会の報告、総会特別講演報告など、いつものように充実した読みごたえのある内容となっています。今月もぜひ最後までご熟読ください。
- ♪ 本年より発行月が 1 月、5 月、8 月、11 月へ変更となりました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

(T. M)

近畿国立病院薬剤師会ホームページ <http://www.kinki-snhp.jp/>

近畿国立病院薬剤師会会誌

第二十九号 平成 24 年 1 月発行

発行元 近畿国立病院薬剤師会事務局

大阪市中央区法円坂 2-1-14

(独立行政法人国立病院機構大阪医療センター薬剤科内)

発行人 会長 北村 良雄 (京都医療)

編集 広報担当理事

廣畑 和弘 (刀根山)

広報委員

石塚 正行 (大阪南医療)

玉田 太志 (南京都)

本田 富得 (神戸医療)

朴井 三矢 (京都医療)

中西 彩子 (大阪南医療)

東 さやか (大阪医療)

奥田 直之 (大阪医療)

宮部 貴識 (近畿中央)